

**白井市まち・ひと・しごと創生総合戦略**  
**（平成29年度地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金事業）**  
**効果検証シート**

平成30年5月

白井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成29年度地方創生推進交付金事業） 効果検証シート

1 基本情報

事業名	しろいの梨ブランド化推進事業		
位置付け	基本目標③ 産業が活力を生み出すまちづくり		
	1 魅力ある農業の推進		
担当課	農政課	事業年度	平成28年度～平成30年度

2 事業の背景・概要

本市の基幹産業は農業であり、農産物販売の約7割を果樹が占めている。その中でも「しろいの梨」は、有数の梨の産地である千葉県の中でも1位の果樹面積と収穫量を誇るなど、本市の主要作物となっている。しかし、農業者の9割以上が50歳を超え、約7割が後継者・担い手がない現状の中、農業者は今後の農業経営について新たな事業展開が困難な状況に陥っており、これはブランド力の弱さ、生産性の低さ、人手不足の悪循環に陥っていることが要因である。

- ①ブランド力の弱さ：「しろいの梨」は千疋屋（せんびきや）に出荷するなど味・質は高いものの、消費者には県内他市産の梨の方が認知度が高く、ブランド力を発信しきれていない。
- ②生産性の低さ：梨の木の老木化により収穫量が落ちるため、新しい苗木に改植する必要があるが、改植後結実までに5年間かかることが改植を妨げ、生産性が低下している。
- ③人手不足：農業収入が低迷していることにより、若い後継者が農業を継がずに、市外に流出している。

そこで、農業者、JA西印旛等と連携して、課題解決に向けた次の取組を展開する。

【ブランド力の向上】

- モンゴルなど海外での商談会への参加、本格輸出に向けたマーケットニーズの分析
- 市場や鉄道、駅などの各種施設でのPR活動

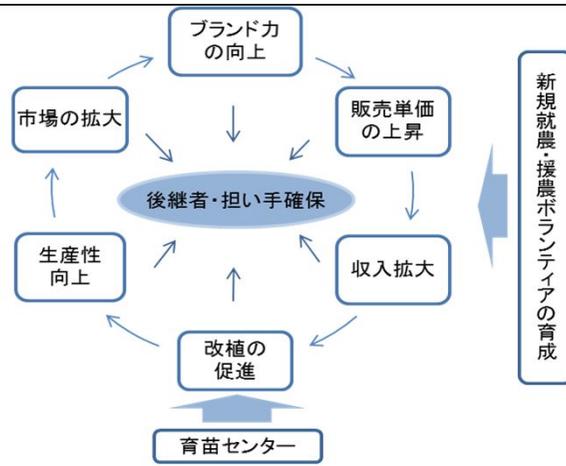
【生産性の向上】

- 梨業組合が梨の木を共同育成し、大苗になった段階で農業者に供給する育苗センターを運営することを支援し、改植を促進

【人手不足の解消】

- 市民や市外住民が農業者から農業を实践で学ぶ農業大学校を開設・運営
- 援農ボランティア（農作業をボランティアで手伝う人）の育成、農業者への派遣

【参考】事業イメージ



3 取組状況

- 【ブランド力の向上】
- 市場、伊達市「だてな太鼓まつり」、柏レイソルしろいホームタウンデー等でのPR、試食会の開催
  - モンゴルの現地スーパーでの試食・販売（新高200kg）
  - のぼり旗、プリント入りポロシャツ、PRポスター・チラシを作成、北総鉄道電車内に中吊り広告を掲載
- 【生産性の向上】
- 梨業組合による育苗センターの運営を支援（H28年度に植栽した苗1,600本のうち、1,435本を農業者に販売（165本は不良品のため廃棄）、新たに1,600本を植栽）
- 【人手不足の解消】
- 援農ボランティア制度の創設に向けて、農業経営者・消費者を対象に講演会開催及びアンケート調査実施
  - 市内団体等と農業大学校や援農ボランティア制度について協議

4 成果（KPI）

重要業績評価指標 (上段：目標、下段：実績)	単位	基準値 H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
			① 市場取引単価 (幸水、1kg当たり)	円	398.6	399.0 339.4
② 新規就農者数・援農ボランティア数	人	0	0 0	11 9	22 -	
③ 農協出荷量	t	2,999	3,000 3,193	3,000 3,266	3,050 -	

5 コスト

予算額	4,692千円	決算額	2,866千円	交付金額	1,433千円
-----	---------	-----	---------	------	---------

6 今後の方針

事業効果	地方創生に非常に効果的であった
今後の方針	<p>事業の継続（計画どおりに事業を継続する）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○モンゴル国への輸出を継続するとともに、台湾で千葉県産農産物の輸入解禁された場合は台湾への輸出を検討する。</li> <li>○しろいの梨ブランド化推進計画の策定などブランド力向上の取組を強化（別紙参照）</li> <li>○育苗センターの運営を支援するとともに、平成31年度からの梨業組合による自主運営の方策を検討する。</li> <li>○新規就農のきっかけとなる農業体験研修会を開催（市内に研修圃場を持つ民間の農業スクール「アグリイノベーション大学校」に依頼）</li> </ul>

7 白井市まち・ひと・しごと創生審議会の意見

--

## ◆歌舞伎座での「しろいの梨」PR◆

歌舞伎社会を「梨園」ということから、日本一の梨を標榜する「しろいの梨」と「梨園」のコラボレーションを実現し、白井市梨業組合による梨のPR事業と試食販売の支援を行う。



場所：歌舞伎座 地下2階 木挽町広場(上写真)

期間：平成30年8月1日～31日

## ◆しろいの梨ブランド化推進計画の策定◆

これまで「しろいの梨」のブランド化のために、様々なイベント等を行ってきたが、単発的なイベントでそれぞれ一貫性がなく、また現状のブランド力を消費者に対しどれほど啓発できているのかも不明である。

このことから、しっかりとコンサルティングを行い、現状のブランド力調査や、「しろいの梨」の強み(ブランドコンセプト)を明確化した上で、ブランド戦略を策定し、農家・関係団体・市の共通認識のもとで、ブランド力の強化を促進していく。

計画策定期間：平成30年度中

## ◆農産物直売所マップの作成◆

市内で地元産農産物が販売されている場所を軒先販売も含めてマップにまとめ、消費者に配布することで、地産地消の推進、農業者所得の向上に貢献し、魅力ある農業の実現を目指す。

掲載内容：直売所の場所を示した地図、各直売所の概要、市の特産品照会等

配布方法：市役所窓口・案内等に設置、イベントでの配布、やおばあく等直売所での配布など

## ◆「しろいの梨」ポータルサイトの開設◆

白井市の農産物を全国的にPRし、農産物の販路拡大、農業収入の確保及び白井市のPRにもつなげるため、白井市梨業組合が主体となって「しろいの梨ポータルサイト」の立ち上げを行い、その費用に対し補助金を交付する。

インターネットを活用することで、リアルタイムな情報を様々な地域・世代に発信することができ、広く市の魅力をPRすることで消費の拡大、農業者所得の向上につながる。

主な掲載内容：しろいの梨の概要、育苗センター、イベント情報、直売所の名称・所在・連絡先など



白井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成29年度地方創生拠点整備交付金事業） 効果検証シート

1 基本情報

事業名	市民プールを起点としたシティプロモーション推進事業		
位置付け	基本目標② 人を魅了するまちづくり		
	1 しろいの魅力発信		
担当課	農政課・生涯学習課	事業年度	平成29年度

2 事業の背景・概要

白井市民プールは、アドベンチャースライダー、流れるプール、25mプールや幼児プールを備え、幅広い年代のスポーツ振興、健康増進に寄与している。オープン期間が7月第2日曜日から9月第1日曜日と2か月弱であるにもかかわらず、年間5万人程度が利用している。

近隣では珍しくスライダーのあるプールで、大人から子どもまで楽しめる2本のスライダーを備えており、市民のみならず、近隣エリアの方がスライダーを目当てに訪れており、全利用者のうち市外からの利用者が68%と、観光資源に乏しい本市にとっては、最大の集客施設となっている。

しかし、これまでは、利用者の7割弱が市外から来ているにもかかわらず、産業振興につなげたり、市外客を市内への回遊に促す取り組みが十分でなかったという課題があったため、課題解決に向けた次の取組を展開する。

① プール敷地内に物販施設を整備

特産品である「しろいの梨」の最盛期と市民プールのオープン期間が一致することに着目し、市民プール敷地内に帰宅客をターゲットとした梨等の物販施設を整備し、特産品の認知度向上、産業振興につなげる。

② 物販施設内に観光案内機能を整備

本市の認知度は、近隣市でも低く、この状況を打開するため、平成29年度にシティプロモーション専門部署を設けて、市内外に市の魅力をPRしている。そこで、市外からの市民プールの利用が多いことに着目し、物販施設内に観光案内機能を整備（パンフレット等の配架）し、市の認知度の向上と、市外客の市内施設等への回遊を促進する。

③ アドベンチャースライダーの改修

アドベンチャースライダーの安全性と滑走の魅力を高めるため、スライダーチューブ等の改修を行う。

【参考】事業イメージ



3 取組状況

① プール敷地内に物販施設を整備
物販施設として、ユニットハウス（横4.5m×奥行2.1m×高さ2.8m）を整備 移動販売車（やおばあく）による試験販売の実施（8月～9月中の7日間）
② 物販施設内に観光案内機能を整備
テーブル、ワゴン、パンフレットスタンド等を整備
③ アドベンチャースライダーの改修
スライダーチューブやスライダー棟の改修工事を実施

4 成果（KPI）

重要業績評価指標 （上段：目標、下段：実績）	単位	基準値 H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
			① 市外からの市民プール利用者数	人	35,077	35,077 45,839
② 市民プール利用料金収入	千円	18,722	18,722 18,866	20,222 -	21,472 -	22,722 -
③ 物販施設における販売収入	千円	0	0 116	1,000 -	1,900 -	2,800 -

5 コスト

予算額	61,712千円	決算額	54,137千円	交付金額	2,889千円
-----	----------	-----	----------	------	---------

6 今後の方針

事業効果	地方創生に非常に効果的であった
今後の方針	事業の継続（計画どおりに事業を継続する） （内容） ○市民プールの帰宅客を物販施設に誘導し、認知度向上や産業振興を図る。 ・物販施設での梨等の販売 ・パンフレット等の配架による市のPR ○市民プールの中でも1番人気があるスライダーの改修により安全性と滑走の魅力を高めることができたことから、市内外からより多くの来場者が得られるようPRに努める。 ○物販施設の物販以外での活用方法について検討する。

7 白井市まち・ひと・しごと創生審議会の意見

--